

青年部第40回総会

11月14日金曜日に、第40回青年部総会を行ないました。

年間活動の振り返りと今後の方針について共有でき、大変有意義な時間となりました。

今後の活動や取り組みをより良くしていく為に、青年層の積極的な参加と行動が欠かせないという思いを、改めて強くしました。

今年度は運営委員の人数が少なくなりましたが、仲間と力をあわせて青年部、さらには大阪支部全体を盛り上げていきたいと思えます。

(青年部長 船津 泰和)



2025年度青年部役員体制

部長	船津 泰和	(大阪榎頭T)
副部長	稲葉 拓磨	(此花荷役)
副部長	平澤 悠磨	(大正埠頭)
事務局長	佐久原 海	(大商)
運営委員	増田 圭佑	(朽木協鐵)
運営委員	安部 秀紀	(朽木協鐵)
運営委員	山本 光伸	(大阪榎頭T)
運営委員	中野 聖也	(大阪榎頭T)
運営委員	鯨江 尚貴	(加藤運輸)
運営委員	片山 拓真	(此花荷役)
青対部(執行部)	横山 貴安基	(スミサク)



安全衛生委員会定期総会

11月19日(水)17時より2025年大阪支部安全衛生委員会定期総会が、地本第2・3会議室で開催されました。

議長に大正埠頭分会の高城委員を選出し、支部代表の横山副執行委員長からは熱中症対策や腰痛など、専門的な知識が必要な委員会なので頑張ってもらいたいと激励の言葉がありました。私のほうからは、育児介護休業等制度協定の全社締結を目指すこと、地球温暖化による熱中症問題について、多発する自然災害や特定外来生物問題について発言し、あいさつとし

ました。第1号議案から第3号議案まで、古井事務局長から一括提案され、質疑応答の後、満場一致で採択されました。新役員選出に移り新役員体制案も満場一致で可決されました。最後に、田村事務局長より、

みんな1年間頑張ってくださいと閉会のあいさつがあり終了しました。

また、今期で退任となる朽木協鐵分会下村委員、大商分会津村委員、此花荷役分会金津委員お疲れ様でした。

(安全衛生委員会委員長 関谷 和人)



官労使合同防災勉強会 & 避難訓練(大阪・舞洲)

だんけつ



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 陣内恒治

おおさか総がかり集会



11月3日、「戦後80年事実に向き合い不戦の誓いを！憲法9条を守り平和のバトンを手わたそう」をスローガンとして、おおさか総がかり集会が、中之島公園女性像前にて開催され、2500人の市民が参加しました。

集会は、ひふみ礼さん(シンガーソングライター)によるオープニングライブで始まり、開会のあいさつは、山本健治さん(止めよう改憲！おおさかネットワーク共同代表)から「11月3日は明治天皇の誕生日であったが、戦後の国会が、5月3日を憲法施行日に決め、その半年前の11月3日に公布日を決めた。私たちは、平和と人権を育てた憲法を守り抜き、絶対に軍拡と改憲を許さない」と力強く話されました。

つづいて、京都大学の高山佳奈子さんからのメインスピーチでは、ユーモアも交え、現実の分析と対処についてお話しいただきました。

また、冷静に事実は何か？ソース(情報の出処や根拠)は何？と確認しながら、謙虚に歴史に向き合い続ける事の重要性を語られました。



市民アピールでは、「GAZA 虐殺やめろ！堺市民スタンディング」が55回を超え継続されている堺市のとりくみ、「核兵器廃絶」を願って粘りつよく活動をつづけられている寝屋川市の被爆者のおふたりの訴え、そして非人道的な入管行政を告発して活動している学生団体「TRY」からスピーチがありました。

立憲野党4党も揃い踏みし、立憲民主党衆議院議員の尾辻かな子さん、日本共産党衆議院議員の辰日孝太郎さん、社会民主党副党首で前参議院議員の大橋ゆうこさん、れいわ新選組衆議院議員の大石あきこさんがスピーチされ、最後に参加者全員で「生かそう憲法」「とめよう大軍拡」のポテッカーを掲示しました。

憲法といえば、条文の表現が難しく関心を持つ人は少ないと思います。また、自分とはあまり関係のない法だと考える人も多いかもしれません。しかし、私たちに今、さまざまな権利や自由が保障されているのは、現在の憲法が存在している日本に生まれたからです。もし現代の軍事独裁国家に生まれていれば、軍事政権を批判して投獄されたり、戦場に送り込まれ戦死するかもしれません。今の日本には日本国憲法があり平等や自由が保障されているので、私たちは奴隷ではないし、政府批判も許され、徴兵制もありません。

憲法には、私たちが自由に考えたり(思想の自由)、モノを言ったり(表現の自由)、学んだり(学問の自由)、働く(労働者の権利)など、私たちにとても大変大事な権利・自由を保障しています。その大切な憲法に関心を持ち常日頃から改悪されて自由を奪われないように注視していくことが重要です。

(書記長 吉馴 真一)